

## 自分たちの身は自分たちで守る！

阪神・淡路大震災後、白瀬川沿いのマンションに住む住民2人の発意（災害時『本当に、避難できる?』）から始まった取り組みは、地域周辺の16自治会等を含む多くの住民に広がっています。宝塚第2地区防災会いしがいきよあきの石谷清明さんにお話を伺いました。

### 本当に、みんな避難できる？

阪神・淡路大震災を含め、それ以降も多くの自然災害等が国内外に起こるなか、逆瀬台地区の高齢化率は44%を超えている。当地域の指定避難所は逆瀬台小学校、宝塚高校、宝塚西高校で、高低差はなんと100mもある。この道のりを高齢者、身体の不自由な方、すべての方が避難所に行くのは難しく、不安が募る一方であった。現実に平成7年（1995年）に発生した阪神・淡路大震災では低地にある指定避難所の西山小学校に避難された方がたくさんおられた。しかし、西山小学校は他地域の避難所であり、本来の避難所の方たちと収容能力等で問題が発生したのである。

### 眼前のゴルフ場を避難所拠点に…

高台の避難所ではなく、誰でも避難可能な平地地である宝塚ゴルフ倶楽部を避難拠点に加えたいという想いを、当初白瀬川両岸集合住宅協議会の正副会長2人が発意し、地域内住民から「安心、安全なまちづくり」への賛同と共感を得て、地域内外のゴルフ場周辺16自治会等と繰り返し話し合い、同意を得られ、共感の輪が広がった。最初、点と点（2人）が発意し、点が線となり、やがて共感と賛同の輪が大きな面（16自治会等）に広がっていったのである。また、宝塚市危機管理室と熱意ある話し合いを重ね、宝塚ゴルフ倶楽部との三者協議が実現し、検討が進められた。2年間に及ぶ審議・折衝により、平成26年（2014年）11月に、「避難所提供の覚書」が締結された。そして、会の名称を「宝塚第2地区防災会」と名付けた。

その後、毎年秋に16自治会等、宝塚市危機管理室、消防本部、宝塚警察署参加による合同避難訓練を実施している。また、宝塚ゴルフ倶楽部への安全避難経路入り防災マップを作成した。業者見積は高額のため、地元のボランティアの方が、宝塚市から地図データをもらい、16の自治会等へ向け、安全避難経路を調査し、各16種類の地図を

パソコンで作成の上、地元のコピー機で5,000枚を印刷した。作成には約6カ月を要した。

### 喜びの声で報われる！

合同避難訓練実施後に、次年度に向けての反省会をする中で、マンションから県道を渡り、緊急用出入り口からゴルフ倶楽部に入る際に、県道に歩道も溝蓋もないので、危険だという意見が出され、兵庫県に相談したところ、ゴルフ場に沿って約1km間、道端から70cmに白線を引いていただいた。溝蓋の件については継続して相談している。

また、避難後の居場所として、芝生にテント等の設備が必要であるという意見を受け、今後の課題として検討ちゅうさうしている。訓練実施後、災害時の高台への避難を躊躇する高齢者や身体の不自由な方から、「車イスで宝塚ゴルフ場へ避難できる事は、実に素晴らしく、また災害時駐車場全面開放や救援物資用とケガ人搬送のためのヘリポート設置も大変重要なことです。」とのお声をいただいた。「今回の避難所開設時の苦勞が報われたことは、とても嬉しい事です」と語る石谷さんたちの取り組みはまだまた続いていく。



避難訓練 平成27年度（2015年度）は260名、平成28年度（2016年度）は220名が参加しています。



宝塚ゴルフ倶楽部への緊急避難用出入口



避難経路を図示した防災マップ